

日本初の「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム」を設立



主催者あいさつでプラットフォームの重要性を語った北岡伸一JICA理事長。

2020年11月、JICAと一般社団法人ザ・グローバル・アライアンス・フォー・サステイナブル・サプライチェーン(ASSC)が共同で事務局となり「責任ある外国人労働者受入れプラットフォーム」を設立した。

外国人労働者をめぐる人権・労働問題が国内外で指摘されているなか、このプラットフォームは、外国人労働者を適正に受け入れ、「世界の労働者から信頼され、選ばれる日本」となり、豊かで持続的な社会の実現を目指すもの。具

体的には、①外国人労働者とのコミュニケーション強化、②外国人労働者受け入れにおける課題の分析・解決策の検討、③日本国内・国際社会への情報発信等を行う予定だ。

さまざまな分野にわたる関係者が会員として名を連ねており、20年11月16日に開催された設立総会では参議院議員の片山さつきさんやジャーナリストの池上彰さんも登壇。外国人労働者をめぐる課題の深刻さと、プラットフォームへの期待を語った。

ニュース深掘り! 日本で働く外国人との懸け橋となる

このプラットフォームの特徴の一つは、外国人労働者の「声」を直接聞くことです。外国人労働者が抱える課題を正確に把握し、関係者が協働して課題解決に向けた取り組みを進めていく予定です。時間はかかるかもしれませんが、一人ひとりが気づき、理解し、行動していくことが大切だと思います。

JICAは「信頼で世界をつなぐ」をビジョンに掲げて国際協力に取り組んでいます。そのフィールドが途上国であれ日本であれ、おたがいを尊重し支え合う社会の実現を目指していきたいと思えます。

総人口の減少・少子高齢化が日本の社会経済にもたらす影響は深刻で、外国人労働者の受け入れは必要不可欠です。しかし、他国でも類似の課題を抱えており、国際的な人材獲得競争はすでに始まっています。将来にわたって「選ばれる日本」となるためには今が正念場です。

外国人労働者の半数以上が途上国の出身であるなか、JICAは途上国を中心に国内外に数多くの拠点とネットワークを持っており、日本国内への外国人労働者の受け入れや共生社会の構築に向けてさまざまな貢献ができると考えています。改正入管法の成立をふまえ、組織を挙げて貢献策の検討を加速させた結果、このプラットフォームの構想が生まれました。

JICA企画部
総合企画課
木村明広さん
きむら・あきひろ

2010年JICA入構。調達部、産業開発・公共政策部、インド事務所を経て18年から現職。外国人材の受け入れや共生社会の構築に向けた方針の検討などを担当。



JICA HEADLINE NEWS

1月 12日 | ▶ **インド 新型コロナウイルス危機対応のための融資契約に調印**

財政支援を通じ、新型コロナウイルスによる貧困・脆弱層への影響を抑制・緩和する。

1月 8日 | ▶ **カーボベルデ 再生可能エネルギー発電を支援**

再生可能エネルギー発電の適切な導入促進策と運用方法を確立し、ディーゼル発電の運用・維持管理に関する体制を強化するためのプロジェクトを実施。

1月 5日 | ▶ **ミャンマー 水道事業の運営能力改善に協力**

手洗い等の新型コロナウイルス対策にも不可欠な上水道サービス改善に貢献するプロジェクトを実施。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>